

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成28年4月18日（月）～平成28年4月24日（日）〔平成28年第16週〕の感染症発生状況

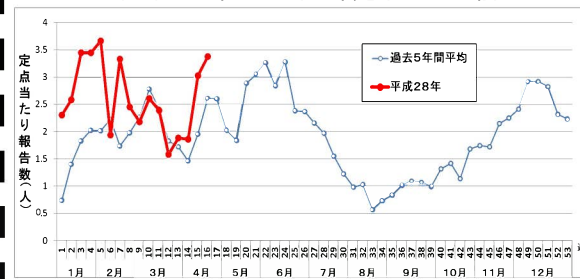
第16週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎は定点当たり患者報告数は6.97人と前週（6.35人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザは定点当たり患者報告数は3.72人と前週（3.50人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり患者報告数は3.38人と前週（3.03人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう～

今年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数は、過去5年間平均と比較すると高い傾向にあります。例年、冬から初夏にかけて緩やかなピークを描いて患者数が増えるため、引き続き更なる患者数の増加に注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 —川崎市—
平成28年と過去5年間平均の比較



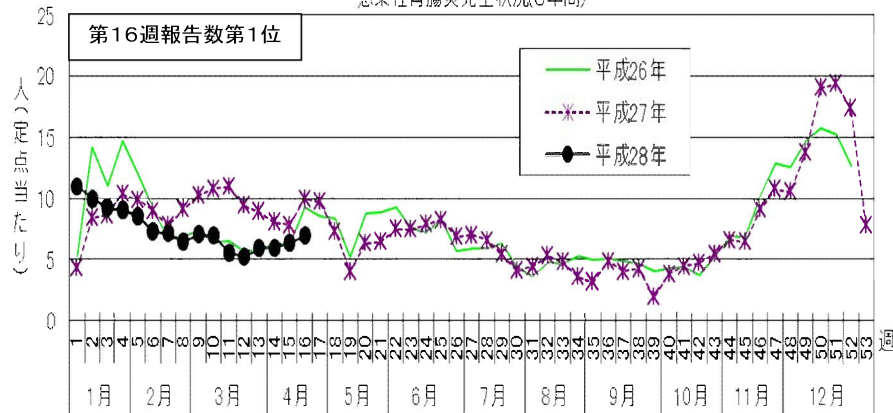
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

- 感染経路：**唾液や鼻水への接触・飛沫感染
- 潜伏期間：**2～5日
- 好発年齢：**就学前後（4～7歳）の小児
- 症状：**突然の発熱（38℃程度）、倦怠感、咽頭痛、体や手足に小さくて紅い点状発疹、舌がイチゴのように赤くポツポツした莓舌
- 治療方法：**治療には抗菌薬が有効です。猩紅熱、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などの合併症を防ぐためにも、早めに医療機関で診断を受けて、主治医の指示どおりに薬を飲みましょう。



発熱・発疹の症状が見られる疾患の中には、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎だけでなく、麻疹・風しんや海外で流行しているデング熱・ジカ熱などもあります。適切な診断・治療を受けるためにも、海外渡航歴などがある場合には必ず受診した医療機関の先生に伝えましょう。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)

